

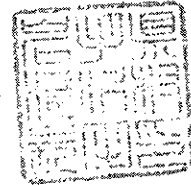


滝道第1010002号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

滝沢村長 柳村 典秀



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

日頃から村政道路事業の円滑促進につきまして、ご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付、国道企第37号にて御依頼のありました標記の件について、別添のとおり提出しますので宜しくお願い申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

岩手県滝沢村

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

・地域密着型の交付金事業の継続

本村では各地域の実情に見合った柔軟な道路整備（例；側溝整備、路肩拡幅、歩道整備等の歩行者安全安心空間の確保）が可能である「地方道路整備臨時交付金制度」を有効に活用させて頂いております。この制度は優先度、交通量、用地など地域の実情に即した設計とすることにより、地域が真に望む効果的でかつ必要最小限の規格による整備を比較的容易に行うことが可能です。地方の実情に照らした、真に必要な道路整備をより推進するため、地方道路整備臨時交付金制度を存続するとともに、必要な財源の確保に努めていただけますよう要望します。

また、地域格差への対応や生活重視の視点から、地方の自主性にも配慮して必要な道路整備を進めるために、新たに制定された地方道路整備臨時貸付金要綱につきましても、継続していただけますよう要望します。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

本村は厳しい財政状況の中で、地域住民が望むもの（優先度、重要性、必要性）について、理解を得て（話し合い、住民協働、予算の確保）、いかに早期に（スピーディーに）実現させるかが、道路整備にあたり重要であると捉えております。地方道路整備臨時交付金制度については、地方の実情に照らした、真に必要な道路整備を実現するうえで非常に有効な制度であり有効に活用しております。

このような中、本村のような寒冷地域にある自治体にとりましては、除排雪に掛る費用や、凍上等により損傷した道路を修繕する維持修繕費が、年々膨らむ一方であり、その財源の確保にも苦慮するところであります。

また、本村のような積雪寒冷地においては、冬期における通行の確保が緊急の課題であり、特に住宅密集地では、排雪場が確保できない現状にあります。

○課題

地方道路整備臨時交付金制度については、継続していただき、積雪寒冷地に属する自治体に対する冬期の除雪費補助並びに、凍上等で損傷した道路を計画的に修繕できるように維持修繕費に掛る補助制度や、融雪側溝等の排雪や融雪に対する施設整備に関する補助制度の創設が課題であります。

「広域的な交流・連携の促進、産業経済の競争力強化」 東北地方の社会資本の重点整備方針より

上記方針を実現するため、都市間距離が長い（全国４６位）広い県土の岩手県において、地域間格差を是正して広域的な交流・連携を促進し、活力ある地域社会を形成するためには、高速道路の利用促進をより図る必要があり、高速料金の値下げ等についても踏み込んだ検討が必要です。さらに、特に道路整備が立ち遅れている地域には、財源をより弾力的に重点配分し、継続して道路交通網を整備する必要があることから、地域密着型の交付金事業について、存続する必要があります。

「あらゆる災害、雪、高齢社会に対応した、安全・安心な地域づくり」 東北地方の社会資本の重点整備方針より

上記方針を実現するため、大規模地震や自然災害等に対応し、今後の高齢化社会にも対応した生活地域を形成する「命を守る道路」となる所謂生活道路と呼ばれる地域間の交通網の確保と道路改修、維持修繕についても事業化できるような補助制度の導入を望みます。

また、積雪寒冷地においては、冬期における通行の確保が緊急の課題であり、特に住宅密集地では、排雪場が確保できない現状にあるため通行に必要な最小限度の復員を確保できるような道路整備が望まれます。

「地球温暖化防止対策の取り組み」 東北地方の社会資本の重点整備方針より

上記方針を実現するため、自然環境豊かな広大な河川用地の有効活用を図り、恵み豊かな自然との共生に配慮した環境づくりやレクリエーションの場として活用するためにアクセス道路の整備促進を推進する必要があります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や価値等）

岩手県滝沢村

○重点事項 ・地域活力の向上 ・都市交通の快適性、利便性の向上	○代表事例 ・国道4号の盛岡市茨島こ線橋から滝沢村分れ間についての4車線事業化にともなう早期の拡幅整備完了 ・自然環境豊かな河川用地等の有効活用	○期待する効果や評価等 ・国道4号の盛岡市茨島こ線橋から滝沢村分れ間については、日交通量が3万台以上にもかかわらず、片側1車線しかなく、慢性的な渋滞が続いています。特に、周辺に大規模住宅団地や商業施設の進出、また県立大学、盛岡大学、県立盛岡農業高校、国県の農林業関連研究施設、県立産業文化センター、岩手県立大学地域連携研究センター等多くの公共施設が連立している重要な役割を担う区間であることに加え、県北部から盛岡方面に向かう車両の増加により渋滞に拍車がかかっており、多くの道路利用者から拡幅整備の声が届いています。 そのため国道4号の盛岡市茨島こ線橋から滝沢村分れ間について拡幅整備されることにより、産業、観光の円滑な発展と促進、並びに、医療、生活等各種活動を支える幹線道路として、滝沢村ばかりではなく、岩手県全体としても非常に高い整備効果が期待できます。さらに、平成28年には岩手国体の開催も予定されており、迅速な選手の移動等円滑な交通が確保されます。 また、4車線化の事業区間延長は3.8kmであり、渋滞時の通過時間は約20分かかりますが、4車線に整備されることにより、10分以内で通過可能になり、大幅に短縮できます。 ・本村においては、団塊の世代におけるグランドゴルフやウォーキングの場についての需要が高まっております。そのような中で、恵み豊かな自然と共生してゆく上で河川敷等については、老若男女問わず、憩いの場やレクリエーションの場として活用が期待されます。また、本村のような積雪寒冷地においては、冬期における通行の確保が緊急の課題であり、特に住宅密集地では、排雪場が確保できない現状にあります。そのような中で、河川敷等と市街地を結ぶアクセス道路を整備することで、親雪の場として更なる利用促進が期待されると共に、排雪の場等としての新たな利用価値を見出すことが可能です。よって、有効利用を促進するためのアクセス道路の整備と、冬期間の新たな活用手法に関する制度についての確立を望みます。	○その他 国道4号の盛岡市茨島こ線橋から滝沢村分れ間については、盛岡北道路と位置づけ、最近の道路整備の財源問題や新中期計画の策定、さらには平成28年予定の岩手国体への対応等から、早期整備に向けて強く働きかけるため関連する13市町村にて「国道4号盛岡北道路整備促進期成同盟会」を平成20年7月8日に設立しました。同7月22日の国土交通省岩手河川国道事務所要望（要望先12名）、28日には国土交通省東北地方整備局（25名）、29日には岩手県選出国會議員（9名）並びに財務省（28名）、国土交通省本省（37名、合計111名）への要望活動を実施しました。
--	---	--	---

岩手県 滝沢村

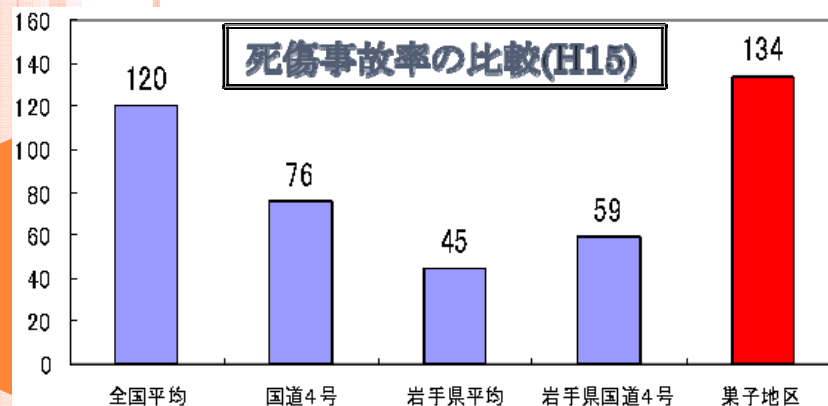
国道4号 盛岡北道路

～ 滝沢村巢子地区の渋滞緩和に向けて ～

国道4号滝沢村巢子地区は、盛岡市の北の玄関口に位置し、岩手県北地方から盛岡市への交通が集中する箇所であり、そのため日交通量は3万台を超える区間である。

当区間は、前後が4車線化されている中、当区間だけが、いまだ2車線であり、ボトルネック現象による、著しい交通渋滞が発生している。

また、右折車線の未整備等による、交差点付近の事故が多発している状況にある。



・期待する効果

- 渋滞緩和により滝沢村から盛岡市への通勤・通学交通の円滑化が図れる。
- 岩手県北地方から盛岡市への、物流・救急医療搬送等の円滑化が図れる。
- 高速道路通行止め時の代替路の確保

